



8月



前編 「就学前の非認知能力レンズで『いいとこ』みつけ!!」

岡山県教育委員会主催で実施した「令和四年度 就学前の非認知能力育成支援講座」のうち、事前研修として配信された動画の要旨を三回に分けてお届けします。講師は、岡山大学准教授の中山芳一（ななかやま・よしかず）先生です。

●非認知能力とはどんな力？

今日は「非認知能力レンズで『いいとこ』みつけ」と題して、子どもたちの非認知能力を伸ばしていくコツについて、話していきます。

「非認知能力」とは、一言で言えば、点数化できない力のことです。一方、点数化できる力は「認知能力」と言います。いわゆる学力のことで、学力テストなどで点数化できる力を認知能力としたときに、そこに「ならず」と「非」をつけて、非認知能力は点数化できない「ない」力と表現できるわけです。非認知能力は、元々「心」とか気持ちの「気」としているものです。例えば、優しい心や、勇気、元気、やる気のように気持ちの「気」に関わるものや、意欲、忍耐力、

思いやりなどですね。

近年、この非認知能力が注目を集めていますが、火付け役になったのが、二〇〇〇年にノーベル経済学賞を受賞したヘックマン先生です。経済学的なアプローチから、非認知能力の重要性について検証した方で、三、四歳児を対象に、非認知能力を大切にしていた教育プロジェクトを実施しました。非認知能力を大切にしていた子どもたちは、していない子どもたちと比べて、十四歳時点の学力が高く、高校を留年せずに卒業し、四十歳時点では収入や持ち家率が高かったり、犯罪率や生活保護受給率が低かったりするという結果が出ました。この検証結果が世界的にインパクトを与えて、非認知能力が注目を集めました。

●非認知能力を例えると

非認知能力を家に例えてみると、柱・筋交いにあたります。

土台となるのは、「自己肯定感」。自分という存在そのものを肯定できているという感覚ですね。その土台の上に建つのが柱・筋交い。これはいわゆる「支え」ですね。下支えしてくれるもの。非認知能力は、そういう力です。さらに、建物の中には、壁や天井、窓、扉、装飾などが見えますね。それらのものが、まさに見える力、認知能力。そのように例えることができるわけです。こうして例えると、土台と柱・筋交いは、家が建ったときに見えなくなりますが、でも、見えなくなるからおざなりにして良いのかというと、違いますよね。見えるところばかりを大事にして、見えないところをおざなりにしてしまうと、結局ちよつとした揺れでべしやんこになったり、風がびゅーっと吹いたら吹き飛んだりしてしまいます。

先ほどのヘックマン先生の検証を僕なりに言い換えてみると、子育てや教育な

ど人を育てていくときに、土台となる自己肯定感や、柱・筋交いにあたる非認知能力を大事にしていけば、認知能力が育まれていく、ということになります。

ちなみに、非認知能力は、乳児期や幼児期の子どものみだけではなくて、大人になっても伸ばすことができます。その場合は、大切な価値観や、自分に必要なものを考えること、また、よりよい行動や習慣を身につけていくことによって、伸ばしていくことができます。





倉敷市立茶屋町小学校 1～5年 (令和4年度)

「夏休みのおに」(にじみ絵)

水性ペンで描いたように、きりふきで水をかけると、インクがにじんできれいになりました。かわいいおにが、かくれています。

●三つの非認知能力の特徴

では、この非認知能力について、もう少し詳しく見ていきます。様々な教育現場を見た結果、非認知能力を育成する上で、大きく三つの力にグループ分けすると活用しやすいと考えました。これは、岡山県の「夢育」でも使われています。

・一つ目は、「自分と向き合う力」。この力は、今の自分の状態をそのまま維持するための力。例えば、「嫌なことがあっても我慢する忍耐力」とか、「自分の気持ちが揺さぶられたときに落ち着ける自制心」、あと、「落ち込んでしまったときに、気持ちを切り替えていける回復力(レジリエンス)」。そういうものが自分と向き合う力です。



「就学前の非認知能力レンズで『いいとこ』みつけ!!」

WORKBOOK をもとに作成

・二つ目は、「自分を高める力」。自分と向き合えばかりじゃだめですよ。今の自分をより良くしていく、高めていく力で、例えば「意欲」とか「やる気」ですね。それから、「自分ならできるという自信」、何かするときに楽しめる「楽観性」。このようなものは、自分をより良くする、自分を高めるための力です。

・三つ目は、「他者とつながる力」。これまでではどちらも自分でしたが、他者とやりとりしたり、他者の思いに自分が寄り添ったりしていく力。共感性や強調性、社交性、コミュニケーション力。これらは常に他者を意識している力なので、他者とつながる力としてグループ分けできます。

3つの非認知能力の特徴

非認知能力	特徴 (○…プラスの面 / ●…マイナスの面)
<p>自分を高める力</p>  <p>自分をさらにより良い状態にするために必要な力</p> <p>やる気・意欲・向上心・挑戦心・楽観性 など</p>	<p>○新しいもの好きで、新しさに喜びを感じることができる。</p> <p>○難しいことも、自分ならできると自分を信じていることができる。</p> <p>○いろいろなことに挑戦して、それを楽しむことができる。</p> <p>●新しいもの好きのため、1つのことが続けない。</p> <p>●計画的な取り組みが苦手。</p> <p>●楽しみがひとりよがりになり、周りと合わなくなる。</p>
<p>自分と向き合う力</p>  <p>自分の気持ちや状態を落ち着かせるために必要な力</p> <p>ねばり強さ・我慢強さ・回復力 など</p>	<p>○表情や行動や態度に落ち着きと安定感がある。</p> <p>○計画通りにきちんと行い、規則正しく、我慢強く、注意深い。</p> <p>○辛いことがあっても気持ちを切り替えて、再び、取り組むことができる。</p> <p>●周りの人たちに自分の感情の変化が理解されにくい。</p> <p>●予定外の出来事を臨機応変に対応することが苦手。</p> <p>●精神的なストレスを自分の中で抱えすぎてしまう。</p>
<p>他者とつながる力</p>  <p>他者と協働するために必要な力</p> <p>協調性・社交性・共感性・コミュニケーション力 など</p>	<p>○他者とのいろいろなやりとりが上手にできる。</p> <p>○他者の気持ちや想いを理解し、その理由なども想像することができる。</p> <p>○人当たりが良く、たくさんの人たちと仲良くできる。</p> <p>●自分と相手と同じであることを押し付けてしまいやすい。</p> <p>●相手を思いやりすぎて、精神的に疲れやすい。</p> <p>●自分の意見をはっきり主張することが少ない。</p>

「就学前の非認知能力レンズで『いいとこ』みつけ!!」WORKBOOK をもとに作成

これらの力は、どれが一番良いということではなく、それぞれの力を伸ばすことによって、お互いが絡み合って伸びていく関係にあります。

そして、自分と向き合う力、自分を高める力、他者とつながる力は、それぞれ特徴があります。

例えば、自分を高める力の場合、新しいことに喜びを感じられたり、自分ならできるといふ自信があったり、いろんなことに挑戦できたりする一方で、新しいもの好きのために一つのことが続けにくかったり、

討画的に取り組むのが苦手だったり、楽しみが独りよがりになって、周囲と空気感が合わなかったりします。これは、自分と向き合う力と他者とつながる力も同じことが言えます。つまり、非認知能力は、プラスとマイナス両方の面を持ち合わせているということなんです。これは、認知能力との大きな違いです。認知能力は、一〇〇点になればいいんですが、非認知能力の特徴として、高すぎるとマイナスになってしまいう場合もあるということも知っておいてください。

(中編へ続く)